

研究テーマ	発想や構想の能力を育む美術科の学習指導の在り方 ー第2学年「ともす灯り ともす心 張り子のランプシェード」の実践を通してー
-------	--

北茨城市立華川中学校 教諭 大津 友美

I 研究テーマについて

中学校学習指導要領解説美術編では、目標として「基礎的な能力を伸ばし、美術文化についての理解を深め、豊かな情操を養う。」とある。その中で、和紙を使った張り子は日本の伝統と文化を象徴するものであり、その風合いや意匠から美術文化と密接した関係にあると考える。また、第4章指導計画の作成と内容の取り扱いでは、「制作の過程や完成段階などで、学級全体やグループなど形態を工夫して、一人一人が自分の思いや工夫したことなどを発表したり、他者のよさを認め合ったりして互いが学んだことを共有化する学習の機会を設けることが大切である。」と明記されている。

これまでに実践してきた授業を振り返ると、教師側が学習計画に沿って時間配分をしても生徒は発想・構想の段階で考えがまとまらず時間だけが経過してしまうことが多く、改善しなければならぬと感じる。本校生徒は、美術への興味・関心が比較的高く、表現活動に対して全般的に楽しみながら意欲的に取り組む姿が見られる。しかし、作品制作時にどのように表現するか考える発想・構想の段階でつまずき、思いつかないまま意欲をなくしてしまうなどの困難さを感じている生徒がいる。

そこで、発想・構想の段階で作品のイメージを広げ、考えをまとめる手立てとして言語活動を充実させることで発想や構想の能力を育てたいと考えた。今回の課題として構想を練る段階で構想図だけでなく、言葉で考えをまとめたり、友達と批評し合うなどの意見交換をしたりすることで作品構想のヒントが得られ、その後の表現活動の学習意欲につながるのではないかと考え、本主題を設定した。

II 研究の実際

1 題材名 「ともす灯り ともす心 張り子のランプシェードをつくろう」

2 題材の目標

身近にある光の演出や灯りに関心をもち、光のゆらぎや安らぎなどの光のもつ効果や和紙の特性を感じ取りながら、目的や条件を基に構想を練り、形や材料を工夫し表現することができる。また、自分の作品へ込めた思いなどについて話したり、感想を交換したりすることを通して、友達や自分の作品のよさや美しさに気づき、美術作品の見方や味わい方を身に付けることができる。

3 題材について

(1) 生徒の実態 (平成26年 9月16日調査 2学年計30名(2名欠席))

1. 美術の授業は好きですか。	とても好き7人	好き14人	あまり好きではない5人	好きではない2人
2. 美術はどんな時間ですか。	自分の表現ができて楽しい13人	アイデアを考えて楽しい12人	安らぐ3人	
3. 絵を描いたり、何かを作ったりする授業(表現)は好きですか。	とても好き11人	好き11人	あまり好きではない5人	好きではない1人
4. 絵や何かを考えるとときにアイデアを考えることは好きですか。	好き15人	苦手13人		
5. 作品を作るときにアイデアはすぐにかびますか。	うかぶ4人	ややうかぶ9人	あまりうかばない12人	うかばない3人
6. 鑑賞活動でみんなと話し合うことは好きですか。	とても好き5人	好き13人	あまり好きではない6人	好きではない4人
7. 美術の授業は現在あるいは将来役に立つと思いますか。	思う16人	思わない12人		
8. 灯りのデザインは制作したことがありますか。	ある2人	ない16人		

アンケートの結果から、表現活動を好む生徒が多く、美術に関してアイデアを考えることや自分の表現ができることが楽しいと感じていることがわかる。授業においても自分の作りたいデザインや作品に対して意欲的に取り組む生徒が多い。一方、柔軟にアイデアを考え、発想を広げることが苦手と感じる生徒もいる。

(2) 題材観

本題材は学習指導要領美術科第2学年及び3学年 2内容A表現(2)「デザインや工芸などに表現する活動」にあたる。目的や条件などを基に、美的感覚を働かせて形や色彩、図柄、材料、光などの組み合わせを簡潔にしたり総合化したりするなどして構成や装飾を考え、表現の構想を練り形に表す題材である。今回の題材は、ランプシェードを自分の創意工夫で作るものである。環境を演出する光の効果をつかませ、明かりを内包することで表される彫刻的な立体の形のおもしろさに気付かせたい。工作が苦手な生徒にとっても、取り組みやすい技法や方法もあるので作る楽しみを得ることができる。また、さまざまな形を工夫しながら素材や組み合わせを追求し開発することができる発展的な題材であり、イメージを膨らませて発想力や想像力を刺激し豊かにするのに適している題材である。

(3) 指導観

制作活動では、生徒自身が作業の手順を確認したり、次の活動への見通しをもたせることで、完成までの課題解決を検討できるように支援していきたい。また、相互鑑賞のなかで言語活動を生かして自分の作品に対する思いを伝えたり、制作を振り返って自己評価したりすることで自分の作品や友達の作品について共感し合い、作品に対して理解を深めることができる。そこで、本題材では、使う人の気持ちや機能、造形的な美しさなどを考える発想・構想の段階に重点を置き指導する。言語活動を充実させることで作品のイメージを広げ、考えを明確にしてアイデアをまとめたり、他者との交流により見方や感じ方を広げたりすることなど、学んだことを共有化することで発想や構想の能力を育てたいと考え、本題材を設定した。

4 題材の評価規準

関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
・灯りが人の気持ちに与える影響や、照明としての機能を考え、表現することに関心をもち、主体的に構想を練ったり材料や用具を生かしたりしようとする。	・感性や想像を働かせて、使う人や場所を考え、光の透け方などを工夫し、その効果を試しながら、形や素材の美しさなどを考え、表現の構想を練ることができる。	・素材を生かし、形や色、光の効果を考え、必要な用具を選択して使いこなしながら、創意工夫して表現することができる。	・光の効果や形の違いの面白さを味わい、互いに素材の生かし方や工夫点を説明し合うなどして、灯りがもたらすよさや美しさを感じ取ることができる。

5 指導と評価の計画(10時間扱い)

○印は時数

時間	学習内容・活動	評価規準・【評価方法】
第1次 ①	「光遊び」を通して、光の美しさを鑑賞し、灯りの演出や灯りのもつ効果と和紙の特性について知る。	・灯りに興味・関心をもち、自分のランプシェードの制作をしようとする。 関【観察】 鑑【ワークシート】
第2次 ②	作りたいランプシェードのアイデアスケッチを描く。 アイデアスケッチを相互鑑賞する。	・作りたいデザインを工夫して描こうとする。 想【ワークシート】 ・自分や友達のアイデアスケッチを相互鑑賞し、感想を交換するなど批評し合うことができる。 関 鑑【観察・ワークシート】
第3次 ⑥	張り子の技法でランプシェードを制作する。 ・使う素材を確認し、必要な道具を使っ	・作りたい作品の主題にそって、必要な用具や制作の手順を考えながら見通しをもつて、主体的に制作することができる。

	て、自分の立てた構想・制作手順に従って制作をする。	創【観察・制作途中の作品】
第4次 ①	相互鑑賞をして、自分や友達の商品のよさや工夫されているところを感じ取る。	・自分や友達の商品について、感想を交換し合いながら鑑賞し、よさや美しさの気付きながら、鑑賞することができる。 鑑【作品・ワークシート・観察】

6 指導の実際

① 導入の工夫

和紙はランプシェードのセットに入っている雲龍紙を使用し、光の部分にはLEDのライトを使用した。まず、和紙をLEDの光にかざし、光の透過性や和紙の特性を感じ取る実験を行った。白い和紙と光、色のついた和紙と光、白和紙と色和紙を重ね光をかざしてみた結果を発表し合ったところ「和紙はLEDの灯りを透すからから、和紙の色とLEDの色が少し混ざっていききれいだった。」「紫の和紙でも、青いLEDで白い和紙を重ねたら青に近い紫になった。」「白い和紙と色のついた和紙を重ねると色が柔らかくなった。」「和紙に触ると他の紙と比べて柔らかく温かい感じがする。」などといった絵の具では表現できない素材のもつ色や手触りを感じ取ることができた。また、今回使用したLEDの光は色を変えたり、色が変わる速さなどのモード切り替えができたりするので、これから自分が作りたい張り子のランプシェードの部分に合う光を演出できるといった表現意図を考えるきっかけにつなげることができた。

② 発想や構想を引き出すためのワークシートの活用

ランプシェードの全体の形を考える発想・構想の段階では「光の効果や和紙の特性をいかした張り子のランプシェードの形を考えよう。」というねらいのもと4種類のアイデアスケッチを行った。ワークシートには作りたい形や色などが具現化してまとめられるよう4つの枠を用意した。そして、4種類考えた中から作りたい形を決定し、完成予想図になるようさらに詳しくアイデアスケッチをまとめた。この段階では、完成作品に明かりを灯して使いたい場所やどんな気分のときに使いたい作品の演出を考えさせるワークシートにした。演出を考えた中では、自分の部屋に飾りたいと考える生徒が多かった。飾る場所や使いたい気分を考えることで、形だけでなく色や全体の形に付ける色和紙などの飾りを付けるかなどといった具体的な構想を練ることにつながった。また、完成予想図になるアイデアスケッチには作品の高さ、大きさを具体的に記録したり、配色計画や色和紙などの飾りをつけたりすることを「言葉のスケッチ」としてスケッチとともに言葉で記録させた。

③ アイデアスケッチをもとにした意見交換ができる場の設定

生徒同士の意見交換を重視し、ワークシートに描いたアイデアスケッチを見せ合う場を設定した。まず、同じ班の中でアイデアスケッチを紹介し合った。その後、付箋にアイデアスケッチの良いところやアドバイスを書いて付箋の交換を行った。さらに多くの意見交換ができるように全体で付箋に意見を書いて交換し合った。

(赤い付箋にはよさや参考になったところ、

黄色の付箋にはアドバイス)

それにより、自分が使う目的や機能について発表し合い、友達から客観的にアドバイスをもらうことで自分の考えが整理され、構想をまとめることにつながった。また、他の生徒の発想や構想に触れ、自分の発想や構想を振り返ることで次時にもっと工夫したいことを「つかみ直す」ことができた。



アイデアスケッチと相互鑑賞のワークシート

④ 発想や構想の段階における発問の工夫

アイデアスケッチの段階で、形が決まっても絵の具で着彩するのか和紙を貼るのか決まっていな生徒が多く見られたので、イメージに合う配色計画が決定できるように発問を行った。発問では「ライトを点けたときと点けていないときはどのように見せたいか。」「アクリル絵の具で着彩したところに白い和紙を重ねて貼るとどのような光の効果があるだろうか。」といった学習の導入時に光の効果や和紙の特性を実験して感じ取ったことを発問し、思い出すことで配色計画や飾りをつけることを再確認し、生徒が表したい光を演出できるような発問を行った。

⑤ ランプシェードの骨組み作り

ボール紙やガムテープを使って張り子の骨組みを作った。初めに細い帯状になっているボール紙をホチキスで止めて形のもとになる骨組みを作った。アイデアスケッチのときには平面で考えていたものを立体にしていく作業は慣れないことであつたため、形作りに苦戦する姿が多く見られた。張り子のランプシェードの形作りにおいてこの作業ができないと次に進めないため個別に指導し、ボール紙を骨組みにどのくらい使うか考えながら作業を進めた。また、細かい部分の細工にはガムテープを使って作るよう指導した。作品完成時に下部に針金を付けるためアイデアスケッチで考えた作品の高さに2cmほど余裕をもたせて骨組みを作り、この作った骨組みは作品完成時に形の下部から抜き取ることで張り子のランプシェードになることを生徒に伝え骨組みを作った。骨組みを作り終えた生徒には、骨組みが作り終えていない生徒の補助をするように伝え進度差が広がらないように配慮した。



骨組みの作成

⑥ 和紙の貼り付け

白い和紙は全体に合計3回貼り付けた。和紙は小さく千切りすぎても貼り付きがよくないため、あらかじめ4、5cmの大きさに準備するように指導した。白和紙は手で千切ったり、はさみで切って全体の質感を出したりすることで自分のイメージに合うように選択させた。1回目は骨組みの型を最後に抜き取るために離型液(中性洗剤を水で薄めたもの)を和紙につけて貼った。2回目は硬化液(木工用ボンドを水で薄めたもの)を和紙につけて隙間なく全体に貼るように伝えた。特に、角張っている部分や細かい部分は刷毛などを使いしっかりと貼り合わせないと和紙が乾燥してきたときに浮いてしまうため丁寧に貼り重ねるように指導した。3回目は、色和紙などの飾り付けや絵の具での着彩のあとに形を固めるために硬化液の濃度を濃くした状態で和紙を全体に貼り付けた。和紙を離型液や硬化液に浸すと水分を含み柔らかくなるため、これが固まってランプシェードになるのか不安に思う生徒もいたが、重ねて貼ることで他の紙には見られない和紙の繊維の丈夫さに気付くようになった。作業過程では、生徒達は2回目の和紙の貼り付けの段階までに乾燥時間をおくことで進度差が出てしまったので、作業が遅れ気味の生徒には1時間でどこまで進めるか進捗状況と次時の活動予定を学習カードに毎時間記録し、制作の見通しをもたせて作業に取り組ませた。作業が進んだ生徒には、同じ班の生徒の手伝いや次の飾り付け、着彩の再確認をするなど発展的な課題に取り組むよう指導した。



制作時の風景

III 研究の成果と課題

成 果

- ・言語活動を充実させることで生徒は、友達の見解から作品のイメージを広げたり固めたりして、よりよい作品にするための手がかりとした。また、褒め合ったり、励まし合ったり、自分の作品に自信をもったりしながら学習に意欲的に取り組めた。
- ・アイデアスケッチに色や形などを言葉で書いておくことで制作途中でイメージを再確認し、表したいイメージの明確化や具体化に有効であった。教師側が指導する際にも、言葉とスケッチによって生徒が表現したいものが明確になっていることで、具体的な指導や助言ができ、より一層効果的であった。このように、ワークシートを活用することは発想・構想の能力の育成に効果があったと感じられた。

これらのことから、アイデアづくりの段階において、言葉で形や色彩、イメージを明確にすることによって自分の思いや考えを深めることと意見交換をするなどの言語活動を踏まえた活動が、生徒の発想や構想の能力を育むために有効であったと考える。

課 題

- ・アイデアスケッチの段階で表したい光や色のもつ感情からイメージして抽象的な形で表すなどの表現の幅を広げられるような手立てを考えていきたい。
- ・発想や構想の段階で表現への思いが強い生徒にとって、意図的に言語活動を取り入れようとしても、つくりたいという思いが膨らんでいるときには効果がない場合もあった。時と場合に応じて言語活動を取り入れる必要がある。
- ・実践授業では豊かな発想を引き出すような導入を行った。発想や構想の能力を育成するためには、題材の提示の仕方をさらに工夫していきたい。また、日本の伝統工芸品である和紙について導入時に学習する機会を多く設定し、鑑賞活動と関連づけて指導したい。

〈 参考文献 〉

- ・文部科学省「中学校学習指導要領解説」美術編（平成20年9月）
- ・文部科学省「言語活動の充実に関する指導事例集～思考力、判断力、表現力等の育成に向けて～」【中学校版】（平成24年6月）

〈 完成作品 〉

